

インフルエンザ 予防接種説明書

○高齢者（65歳以上）でインフルエンザ予防接種を受けようとする方は必ずお読みください。

1. インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。

インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをするにより、ウイルスが空气中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

典型的な症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。普通のかぜが流行しても死亡する人はあまり増えませんが、インフルエンザが流行すると、特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率がふだんより高くなるという点でも普通のかぜとは異なります。

2. インフルエンザを予防するには

予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。これは世界的にも認められている最も有効な予防法です。インフルエンザは空气中に拡散されたウイルスによって感染しますから、感染予防のためには、人込みは避けましょう。また、常日ごろから十分な栄養や休息をとることも大切です。外出時のマスクや帰宅時のうがい、手洗いは、普通のかぜの予防と併せておすすめします。



3. インフルエンザ予防接種の有効性は

65歳以上の高齢者に行った調査では、予防接種を受けないでインフルエンザにかかった人の34%～55%は、予防接種を受けていればかからずに済んだこと、また予防接種を受けないでインフルエンザにかかって死亡した人の82%は、予防接種を受けていれば死亡せずに済んだことが報告されています。

なお、予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5ヶ月間とされています。毎年インフルエンザが流行する前の12月上旬までに接種を受けておくにより効果的です。

一般的には、65歳以上の方は1シーズン 1回の予防接種で効果があります。

4. インフルエンザ予防接種の副反応は

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、わずかながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、これも通常2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

5. 接種対象者は

法律で定められたインフルエンザの予防接種の対象者は、満65歳以上の方と満60歳以上65歳未満で慢性高度心・肺・腎機能等不全で身障手帳（内部障害）1級の方です。しかし、接種を受けることの義務はなく、本人が接種を希望する場合に限り接種を行います。接種を希望しない人に原則として予防接種をすることはありません。

6. 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、その必要性や副反応についてよく理解しましょう。分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師などに質問しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける方が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない人

①明らかに発熱のある人（一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。）

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の变化が分からなくなる可能性もありますので、その日の接種は見合わせるのが原則です。

③インフルエンザワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある人

「アナフィラキシー」というのは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく全身反応です。

④その他、医師が不適當な状態と判断した場合

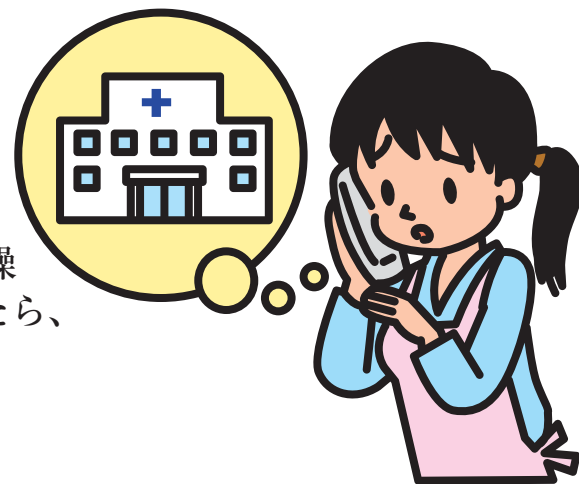


- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性的の病気で治療を受けている人
- ②前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人
- ③今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④今までに中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
- ⑤インフルエンザ予防接種の成分又は鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②副反応の多くは24時間以内に出現しますので、この間は体調に注意しましょう。
- ③入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。



予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたら、医師（医療機関）の診療を受けてください。



予防接種健康被害救済制度の手続き概略

健康被害を受けた者又はその保護者

通報

市区町村

市区町村医師会

協力

市区町村の予防接種実施

受診

健康被害の発生

医療機関

通報・資料収集

予防接種健康被害委員会

参加指導

参加

保健所

通報

都道府県

報告

専門医師集団

選定

都道府県医師会

協力

厚生労働省

資料提出

認定病審査障害